

館長懇話会「図書館の地域開放」に関する事前アンケート集計結果

* 回収率： 79% (189 校 / 240 校)

* 地区別回答数

地区名	東海	京都	阪神	中国・四国	九州	合計
加盟館数	49	41	62	40	48	240
回答数	41	30	47	31	40	189

* 開館データ

・ 2004 年度開館日数

日数	-239	240-269	270-299	300-339	340-	無回答
館数	42	66	57	19	0	5

* 開館時間 平日 (授業期間中)

開館時間	-8:59	9:00-9:29	9:30-9:59	10:00-
館数	46	138	3	2

閉館時間	-16:00	16:01-18:00	18:01-20:00	20:01-22:00	22:01-
館数		45	95	45	4

* 開館時間 土曜日 (授業期間中)

開館時間	-8:59	9:00-9:29	9:30-9:59	10:00-
館数	25	120	4	16

閉館時間	-16:00	16:01-18:00	18:01-20:00	20:01-22:00	22:01-
館数	80	58	12	13	2

* 土曜日開館 165 館 (87%)

* 開館時間 日曜日 (授業期間中)

開館時間	-8:59	9:00-9:29	9:30-9:59	10:00-
館数		6	4	16

閉館時間	-16:00	16:01-18:00	18:01-20:00	20:01-22:00	22:01-
館数	2	24			

* 日曜日開館 26 館 (14%)

学外者の利用登録数

無回答	0	1-100	101-300	301-500	501-1000	1001-3000	3001-
13	37	80	27	13	11	5	3

学外者の貸出総冊数

無回答	0	1-100	101-300	301-500	501-1000	1001-3000	3001-
17	54	30	20	10	21	25	12

1. 図書館の地域開放

行っている	148 館 (78%)
行っていない	41 館 (22%)

2. 地域開放の対象者 (複数回答)

公開講座受講者等の一般市民	29 館
大学周辺地域在住の一般市民	30 館
大学周辺に限らない一般市民	113 館
貴学園外の高校生	63 館
貴学園外の大学生	85 館

3. 入館(利用)手続き (複数回答)

利用登録制度を設けている	105 館
入館(登録)料金を徴収している	14 館
入館チェックのみ	58 館
入館フリー	23 館

4. 利用の範囲 (複数回答)

閲 覧	147 館
貸 出	105 館
複 写	141 館
インターネット端末の利用	82 館
視聴覚資料の利用	96 館
レファレンスサービス	83 館

5. 公共図書館との連携 (複数回答)

公共図書館を通じた貸出サービスの実施	38 館
公共図書館からの参考調査の受付	35 館
その他	21 館

公共図書館との連携（類似回答を要約）

- ・ 連携したサービスの提供は行っていない。
- ・ 連携を検討中。
- ・ コンソーシアムのような制度的なものはないが、要請があればいつでも応じている。
- ・ 一般市民への開放は公共図書館を通じたサービスのみに限っている。
- ・ 病院図書室からの参考調査や文献複写依頼等に応じている。
- ・ 「横断検索システム」のネットワークに参加している。
- ・ 公共図書館と近郊大学で相互貸借サービスを実施している。
- ・ 地域の公共図書館と研修交流や情報交換を行っている。
- ・ 公共図書館ホームページに大学附属図書館ホームページをリンクさせている。
- ・ 「大学図書館協議会及び公共図書館等協議会間の相互協力に関するガイドライン」を作成している。

6. 地域開放のメリット（類似回答を要約）

- ・ メリットは感じられません。
- ・ 利用者から図書、VTR等の寄贈があった。
- ・ 特別功労者として表彰を受けた。
- ・ 大学および図書館のPRになっている。
- ・ 「社会に開かれた大学」というイメージアップにつながる宣伝効果があった。
- ・ 大学への関心が高まった。
- ・ 地域住民の本学への理解を促す一助になっている。
- ・ 市民にとって大学を身近に感じてもらえているのではないかと考える。
- ・ 図書館について考える機会となった。
- ・ 高校生に開放したことにより、高校に大学を知ってもらうきっかけとなった。
- ・ 公開講座の受講生が増加した。
- ・ 公共図書館の自習室から締め出される傾向にあるため、中・高校生に好評である。
- ・ 卒業生に対して、生涯学習のフォローが可能となった。
- ・ 公共図書館との連携が深まった。
- ・ 社会福祉施設、関連企業、団体からの利用がある。
- ・ 地域の生涯学習センターとしての位置付けが浸透し、地域貢献ができている。
- ・ 館内で一般市民と机を並べて閲覧することは、学生に対して刺激となる。
- ・ 一般の方、卒業生、退職教職員の利用により、年代の違う方と学生の交流ができた。
- ・ 学生のマナー向上になった。
- ・ 社会人の方々が図書館を利用する真摯な姿は、学生の学修態度に好影響を与えている。
- ・ 一般利用者も含め、利用者数の増加により、図書館の雰囲気活気が出る。
- ・ 図書館スタッフにもよい刺激となった。
- ・ 学内者とは違った意見や声が図書館に届くようになった。

- ・ 所蔵資料やコレクションが有効的に活用されている。

7. 地域開放のデメリット・問題点（類似回答を要約）

- ・ 一般市民の方は利用目的が明確であり、利用上問題になることはない。
- ・ 人手不足。
- ・ スタッフの仕事量が増えた。
- ・ 盗難事件、不審者の入館、迷惑行為などに対する対応業務の負担。
- ・ 資料の延滞や紛失の対策。
- ・ 専門的・難解な質問に対する対応を求められる。
- ・ レファレンスサービスを行っていないとしているが、実際には断れない。
- ・ 学外登録者数とその貸出総冊数が大きく増加したため、貸出可能冊数を変更した。
- ・ パソコンの操作方法、分類番号の意味、書架の並び等の初歩的な質問が急増した。
- ・ 当然の権利だと誤解して過度の要求をするケースがあった。
- ・ 高校生がテスト期間等に多く、大学生の閲覧スペースが占領されてしまう。
- ・ 検索性 PC がインターネットに接続している事を悪用された。
- ・ 学生用のベストセラーなど、いち早く貸出・予約されてしまうことが続いた。
- ・ インターネット端末を長時間利用したり、無制限にプリントしたりする。
- ・ 営利目的と思われるような特定分野の文献複写を大量に行った。
- ・ マナ - が低下する。
- ・ 申込後、利用証を取りに来ない方があった。
- ・ 年齢制限をしていないため、中学生、乳幼児も来館する。
- ・ 児童を連れて来て、勝手に遊ばせていたりする。
- ・ 車の問題。

8. 地域開放の工夫・方策（類似回答を要約）

- ・ 入館チェックシステムを導入した。
- ・ 防犯カメラ、警報ブザーを設置し、見回りの強化や盗難に注意の放送をする。
- ・ 継続的利用を希望する利用者を対象に利用登録制度を検討中。
- ・ 規登録と年度更新を3月に1本化した。
- ・ 「学外者図書館利用細則」を定めた。
- ・ 学外利用者の利用手続きの簡素化を図った。
- ・ 身分証明書をコピーし、未成年者の場合は保護者の住所を聞く。
- ・ 高校生に対し制服着用の協力要請したり、利用証やバッジを携帯してもらう。
- ・ 大学のホムペ - ジや掲示板に利用案内を掲載。
- ・ オープンキャンパス・大学祭等、公開講座等を通じて案内。
- ・ 高校生対象に「見学・大学図書館業務体験ツアー」を行う。
- ・ 市が発行している広報誌に掲載。
- ・ 新聞社はじめメディア機関を通しての案内。

- ・ 一般利用者向けの「図書館利用案内」を作成し配布している。
- ・ 近隣の中学・高校宛にポスター掲示の依頼。
- ・ 一般市民の場合、研究調査目的の閲覧・複写レファレンスに限り事前連絡前提としている。
- ・ 学内の定期試験中は閲覧席が不足するので、学外者の入館を制限している。
- ・ 学外者の利用が増えたため、貸出期間を短縮したり、指定図書等を貸出しないこととした。
- ・ 意見箱の設置。
- ・ 公開講座担当者や他部署との連携をはかる。
- ・ 貸出サービスを実施。
- ・ 一般利用者を意識した収書や配架の工夫をする。
- ・ 図書購入希望を学外利用者からも受け付けるように変更した。
- ・ 開館時間の延長や土・日曜日開館を行う。
- ・ 夜間もアルバイト生のみではなく、職員も1人残るようにした。
- ・ ブックポストの設置。
- ・ 大学祭に企画をしたり、映画の試写会会場として提供し、地域社会との交流をこころみて来た。
- ・ 会員になると、図書館を利用することが可能になり、公開講座の受講料の割引をうける特典がある。

9. 地域開放の大きな課題・今後の展望（類似回答を要約）

- ・ 医療情報の一般への提供は、医学図書館界でも話題であるが、医学書を中心に収集しており、利用も学生と医療従事者に限定している。
- ・ 開放地域の拡大を考えている。
- ・ 利用者を増やす工夫。
- ・ 施設管理、人員配置など図書館と他の事務組織の連携について検討の必要がある。
- ・ 一定程度の課金制も必要。
- ・ 図書館サ - ビスの多様化に伴う図書館職員の専門性の育成。
- ・ 人的経費について。時間外は正規の職員の勤務が難しい。
- ・ 危機管理、セキュリティ - 対策。（置き引き、盗難事件）
- ・ 平日・土曜日の開館時間の延長、日曜日等の開館。
- ・ 登録の際の個人情報保護について。
- ・ 公共図書館との連携を深めていく。
- ・ コンソーシアムの検討。
- ・ 図書館を生涯学習の場として、いかに整備していくか。
- ・ 地域の公共図書館では受けられない、より内容のあるサ - ビスの提供。
- ・ 幅広い年齢層に対しての教養、娯楽等の資料予算の配分(確保)。
- ・ 特色ある蔵書構成のための収書方針をたてる。

- ・ 学生と地域活動家（本読み語り等）との共同作業。
- ・ 多様な利用者に対する利用教育の実施。
- ・ 図書館主催の講演会を開催し、地域文化の発展にさらに貢献していきたい。
- ・ 市民と学生とのコミュニケーションの場づくりが考えられる。
- ・ 利用者の学習室としての利用と年齢制限について。
- ・ 地域開放が実際に大学にもたらすメリット、費用対効果を検証考えていきたい。
- ・ 地域開放によって、学生へのサービスが低下しないか懸念される。
- ・ 書庫の利用、インターネット利用及びオンラインデータベース等有料サイトの利用について。
- ・ 延滞図書の督促について。

10 . 地域開放をめぐるの討議事項（類似回答を要約）

- ・ 一般市民の大学図書館利用が、学生に良い影響を与えるような他大学の試み事例を知りたい。
- ・ 危機管理について。
- ・ 地域図書館との相互利用の促進について。
- ・ 地域開放にともなうサービスの種類について。
- ・ 開館時間の延長等、開放拡大によるセキュリティ対策についての現状と、具体的、効果的な対策について。
- ・ 人的・経済的サポートをどうするか。
- ・ 情報公開法とのかかわりで、国立大学図書館の動きについて。
- ・ 登録者をしぼる場合の適正な方法とは？
- ・ 女子大学の特殊性を鑑み、防犯対策の具体例。